

2002年に北海道で発生した森林昆虫

う え だ あ き ら お ざ き け ん い ち
上田 明良¹⁾・尾崎 研一¹⁾
 は ら ひ で は い し は ま の ぶ お
原 秀穂²⁾・石濱 宣夫²⁾
 (2004.1.21 受理)

はじめに

北海道内における2002年の森林昆虫の発生状況をとりまとめたので報告する(表-1, 2)。本報告の情報は、北海道水産林務部森林整備課が収集したデータ、森林総合研究所北海道支所と北海道立林業試験場が行なった調査および、森林総合研究所森林病虫獣害データベース(ホームページアドレス：<http://150.26.105.86/index.htm>, ユーザー名：AllUser, パスワード：alluser)による。なお、データベースはどなたでも閲覧可能であるが、ウェブ上での情報入力には予め個別のユーザー名とパスワードの取得が必要なので、事前に当該都道府県の森林・林業試験研究機関の保

表-1 2002年所管別オオアブラムシ類発生状況

所管	トドマツオオアブラムシ		エゾマツオオアブラムシ	
	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)
北海道局	0.00	0.00	0.00	0.00
北見分局	0.00	0.00	0.00	0.00
旭川分局	0.00	0.00	0.00	0.00
帯広分局	0.00	0.00	0.00	0.00
函館分局	0.00	0.00	0.00	0.00
小計	0.00	0.00	0.00	0.00
道有林	331.00	229.00	711.00	636.00
民有林	40.45	5.06	31.43	25.88
小計	371.45	234.06	742.43	661.88
合計	371.45	234.06	742.43	661.88

表-2 2002年に発生した森林昆虫(オオアブラムシ類は除く)

昆虫名	加害樹種	発生地(市町村)	発生区域面積(ha)	備考
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	大野町	11.32	
		七飯町	361.88	
		森町	1,182.24	
		八雲町	50.52	
		函館市	63.16	
ニホンカラマツヒラタハバチ	カラマツ	津別市	410.36	国有林(129.00ha) 民有林(281.36)
		美幌町	200.28	
カラマツヒラタハバチ	カラマツ	北広島市	22.20	
カラマツツツミノガ	カラマツ	恵庭市	54.68	
		北広島市	579.12	
		札幌市	1,855.60	
		美瑛市	198.16	
		夕張市	60.46	
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ	深川市	0.20	
ツガカレハ	グイマツ F1	音更町	0.28	
マイマイガ	シラカバ他	遠別町	8,063.80	国有林(1,478.00ha) 民有林(6,585.80)
		初山別村	2,607.76	国有林(2,484.00ha) 民有林(123.76)
		天塩町	15,368.60	国有林(11,189.00ha) 民有林(4,179.60)
		羽幌町	6,701.00	
		カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	美幌町
		女満別町	3.40	
シラカバナガタムシ	シラカバ	東藻琴村	83.55	

護担当者に連絡されたい。また、従来の専用ハガキでの情報提供も随時受け付けている。ハガキをお持ちでない方は、森林総合研究所および都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者または(財)林業科学技術振興所に連絡をいただきたい。読者からのなるべく多くの情報提供を切望している。本報告に先立ち、発生情報をお寄せ頂いた関係各位にお礼申し上げます。

2002年の発生の特徴

カラマツの食葉性昆虫ではカラマツハラアカハバチ、ニホンカラマツヒラタハバチ、カラマツイトヒキハマキ、カラマツツツミノガが前年より継続して発生した。それに加えて本年は、カラマツヒラタハバチが北広島市で発生した。その結果、カラマツ食葉性昆虫の総発生面積は5,000haに達したが、前年の23,000ha、前々年の28,000haと比べると比較的小さかった(尾崎ら,2001;尾崎・原,2004)。その主要因は、ニホンカラマツヒラタハバチとミスジツマキリエダシヤクの被害が大幅に減少したことによる。内訳はカラマツツツミノガが2,750haで最も多く、次いでカラマツハラアカハバチ(1,670ha)の順であった。カラマツツツミノガは展葉直後の葉を加害するが、7月下旬には新たな葉が展開して被害が回復した。前年、苫小牧市で生じたニホンアカツヒラタハバチの被害はみられなくなった。

網走地方でのカラマツヤツバキクイムシによる被害は過去に例のない大規模なものとなった(図-1)。被害面積は、前年の35haから454haへと大幅に増加し、被害林分では平均約3割の立木が

衰弱・枯死した。過去最大は1982年の400haで、今回はそれを多少上回る程度に過ぎなかったが、被害材積で見ると、過去最大の1978年7,150m³の5倍以上に達する37,970m³が今回被害を受けた(図-1)。これはカラマツが大径化し、面積あたりの材積が大幅に増加しているせい

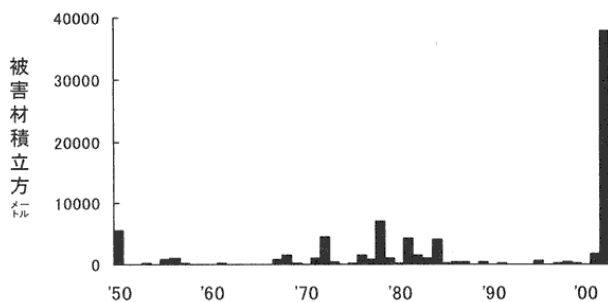


図-1 カラマツヤツバキクイムシによる被害材積の推移 (鈴木, 1984に加筆)

あろう。この地域では1997年からニホンカラマツヒラタハバチが、2000年にはさらにミスジツマキリエダシャクが発生しており、これら食葉性害虫の食害に起因するカラマツヤツバキクイムシの二次被害が心配されていた。網走支庁は、被害木の伐採と林外搬出、また、やむを得ず被害木を山土場に置く場合には、薬剤散布を実施し繁殖源を除去するよう指導した。カラマツヤツバキクイムシの被害に対し、これまで以上に注意が必要になっている。

カラマツ以外では、道北地方の天塩郡と苫前郡の天然林におけるマイマイガによる被害が顕著であった(写真-1)。カバ類、ミズナラ、シナノ

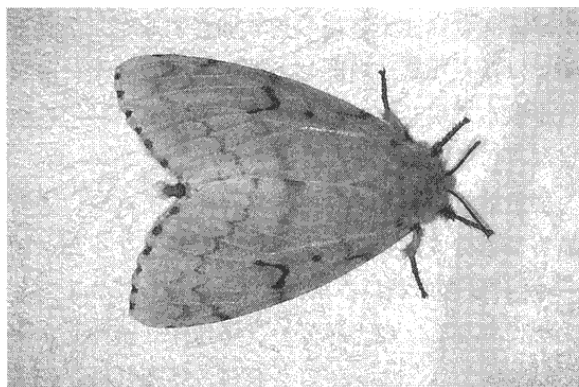


写真-1 マイマイガの成虫 (北海道亜種の前翅長：雄20~25mm, 雌29~43mm)

キ、ヤナギ類、クルミ類、ニレ類、ハンノキといった広葉樹の葉が食害され、被害面積は総計32,000haに達した。2001年の報告で(尾崎・原, 2004), 「被害報告はなかったものの、道北方面でかなり発生しているようで、中川町、遠別町、羽幌町などでは市街地に成虫が大量飛来し問題になった」と記されていることから、大発生は2001年から続いて生じたものといえる。8月には二次展葉がみられ被害は回復した。しかし、成虫が市街地に発生するため、羽幌町ではチラシを作成す

るとともに噴霧器の貸し出しなどを行った。1952年以後の大発生の記録をみると、いずれも道央・道東地方のもので、道北地方での大発生の記録は今回が初めてであった(山口・小泉, 1975; 北海道昆虫談話会, 1987, 1988, 1989)。

シラカバナガタムシの被害はシラカバ造林地の幼齢木に多く、加害された樹幹部は著しく肥大・変色する(写真-2)。ここ数年被害報告がな



写真-2 シラカバナガタムシの被害

かったが、道央・道東地方のシラカバ造林地では継続した被害があったと考えられる。現地調査の結果では、これまで知られていた樹幹の途中を肥大化させる被害の他に、樹幹地際部への穿孔も多く観察され、そのような被害木は枯死していた。

- 1) 森林総合研究所北海道支所
- 2) 北海道立林業試験場

引用文献

北海道昆虫談話会(1987) 昭和61年度・北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 39: 179-184.
 北海道昆虫談話会(1988) 昭和62年度・北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 40: 218-224.
 北海道昆虫談話会(1989) 昭和63年度・北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 41: 214-219.
 尾崎研一・原秀穂・林直孝(2001) 2000年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 53: 229-231.
 尾崎研一・原秀穂(2004) 2001年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 56: 34-36.
 鈴木重孝(1984) 風雪害とカラマツヤツバキクイムシ. 光珠内季報, 60: 7-11.
 山口博昭・小泉力(1975) 昭和49年度に発生した森林害虫と最近10年間の発生状況. 北方林業, 27: 111-114.